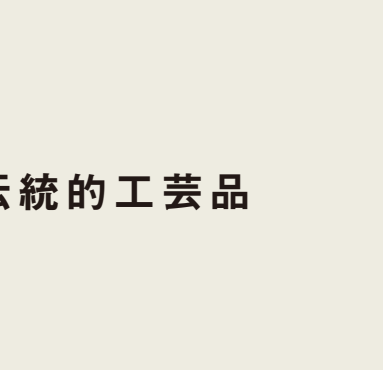
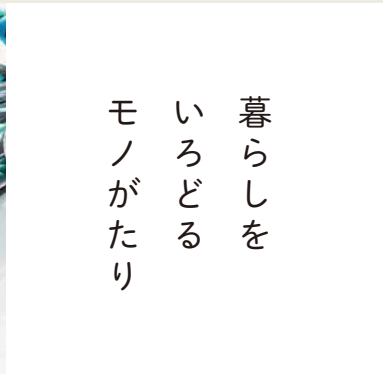




KAGOSHIMA TRADITIONAL CRAFTS



かごしまの伝統的工芸品



暮らしを
いろどる
モノがたり

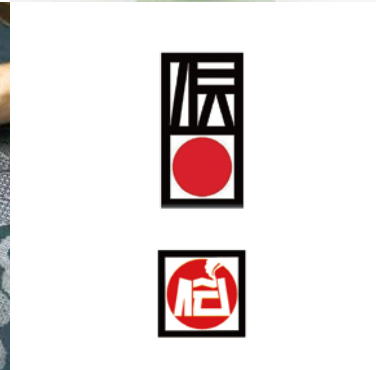
鹿児島県販路拡大・輸出促進課
 〒890-8577
 鹿児島市鴨池新町 10-1
 TEL 099-286-3050
 ✉ tokusan@pref.kagoshima.lg.jp

(公社)鹿児島県特産品協会
 〒892-0821
 鹿児島市名山町 9-1
 産業会館内
 TEL 099-223-9177
 ✉ kagoshima-toku@k-p-a.jp






かごしまの伝統的工芸品
 デジタルパンフレット

KAGOSHIMA TRADITIONAL CRAFTS

暮らしを
いろどる
モノがたり



CONTENTS

国指定伝統的工芸品

本場大島紬
川辺仏壇
薩摩焼

県指定伝統的工芸品

- | | |
|-----------------|------------|
| 01 薩摩切子 | 22 薩摩糸びな |
| 02 薩摩錫器 | 23 伊集院の太鼓 |
| 03 鶴田和紙 | 24 太鼓(チチン) |
| 04 蒲生和紙 | 25 大漁旗 |
| 05 薩摩つけ櫛 | 26 五月幟 |
| 06 屋久杉製挽物 | 27 奄美の芭蕉布 |
| 07 屋久杉製無垢物家具 | 28 竹製品 |
| 08 屋久杉小工芸品 | 29 つづら工芸 |
| 09 加世田鎌・加世田包丁 | 30 宮之城花器 |
| 10 種子鉄 | 31 サンシン |
| 11 種子包丁 | 32 薩摩琵琶 |
| 12 薩摩深水刃物 | |
| 13 刀剣 | |
| 14 甲冑 | |
| 15 薩摩弓 | |
| 16 初鼓(ボンパチ) | |
| 17 鯛車 | |
| 18 香箱 | |
| 19 帖佐人形 | |
| 20 垂水人形 | |
| 21 坊津ガラガラ船・唐カラ船 | |

かごしまの伝統的工芸品

鹿児島県には、令和4年3月現在、国指定3品目、県指定32品目の伝統的工芸品があります。

「かごしまの伝統的工芸品」は、南北600kmにおよぶ県土から産出される原材料を活かし、伝統的な技術・技法により、生活文化としての工芸品が生み出され、産業環境や現在のライフスタイルに合わせて改良を加えながら、脈々と受け継がれています。

近年は、指定された工芸品のカテゴリーにとどまらず、民間企業や異業種とのコラボレーション等により、新しい技術やトレンドを吸収し、伝統の技と融合させた魅力的で斬新なアイテムが生み出されています。

伝統的な美しさや潤い、匠の技と高い品質、手作りの温もりや味わいに加え、SDGs(持続可能な開発目標)の達成や地方創生への貢献など、日本の文化を継承し、地域に根付いてきた伝統的工芸品の素晴らしさが、今、国内外で注目されています。

日常生活の中で、進化し続ける鹿児島の魅力的な伝統的工芸品に是非触れてみてください。

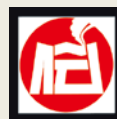


国指定伝統的工芸品

「国指定の伝統的工芸品」とは、「伝統的工芸品産業の振興に関する法律(伝産法)」に基づき経済産業大臣が指定するもので、鹿児島県には、「本場大島紬」、「川辺仏壇」、「薩摩焼」の3つがあります。

これらの3品目には、国が指定する伝統的工芸品であることを称するため、「伝統マーク」(左図)を使用することができます。

なお、この「伝統マーク」は、伝統の「伝」の字と日本の心を表す日の丸とを組み合わせたものです。



県指定伝統的工芸品

鹿児島県では昭和62年度から、「鹿児島県伝統的工芸品指定要綱」に基づき、一定の条件を満たしている工芸品及びその製造者を指定しています。現在、32品目が指定されており、これらの品目には県指定の伝統的工芸品であることを称するため、県の「指定マーク」(左図)を使用することができます。

なお、このマークは、日の丸に鹿児島のシンボル桜島と伝統の「伝」を象ったものであり、黒のフレームは伝統的工芸品を守り育てるという意味を示しています。

伝統的工芸品 5つの要件

- 主として日常生活で使われる
- 製造過程の主要部分が手作りである
- 伝統的技術または技法によって製造されている
- 伝統的に使用されてきた原材料を用いている
- 一定の地域で産地を形成している



国指定伝統的工芸品
本場大島紬

産地 県全域

Honba Oshima Tsumugi [Silk pongee fabric]

日本最古の染色技法をそのルーツに持ち、独特の「泥染め」技法と緋(かすり)模様が特徴の染めと織りが美しい織物です。伝統的な泥大島、藍大島の他に、最近では色大島、白大島といった新しい製品も生まれており、日本のみならず世界でも高い評価を受けています。ストールや小物、インテリアなど、新たな可能性を形にした、商品開発も進んでいます。



問 本場大島紬織物協同組合
鹿児島市卸本町 4-7
TEL 099-204-7550



問 鹿児島県絹織物工業組合
鹿児島市向陽2丁目2-103(株中川内)
TEL 099-202-0648

問 本場奄美大島紬協同組合
奄美市名瀬浦上町 48-1
TEL 0997-52-3411



問 藤絹織物株式会社
鹿児島市南栄 1-3
TEL 099-268-0331



国指定伝統的工芸品
川辺仏壇

産地 南九州市


Kawanabe Butsudan [Buddhist altar]

磨崖仏やかくれ念仏で知られる南九州市川辺町において、「隠し仏壇」としてその技法が確立されました。


豪華さと堅牢さをあわせもつ仏壇として定評があり、その工程は、木地、宮殿、彫刻、金具、蒔絵、塗装、仕上げという7つに分類され、ほとんどが手作業で行われています。仏壇7工程の匠が結集して「川辺手練団」を結成し、インテリアなど、革新的なデザインのものづくりに取り組んでいます。


問 鹿児島県川辺仏壇協同組合
南九州市川辺町平山 6140-4
TEL 0993-56-0240








川辺手練団
KAWANABE SYUREN DAN













国指定伝統的工芸品

薩摩焼

産地 県全域

Satsumayaki (Pottery)

400年以上の歴史を有する薩摩焼は、白薩摩と黒薩摩に大きく分けることができます。白薩摩は白い陶体の表面に貫入と呼ばれる細かなヒビが入っていることが特徴で、黒薩摩は漆黒の光沢を持つものや蛇蝸釉、どんこ釉といった独特の風合いの表面を持つものまで多様に富んだ素材で剛健な焼き物です。

問 鹿児島県薩摩焼協同組合

日置市東市来町美山 1571
TEL 099-294-9039



県指定伝統的工芸品



01

薩摩切子 Satsuma Kiriko (Cut glass)

産地 鹿児島市、南さつま市、さつま町、霧島市

色被せガラスの技法として東洋と西洋の技法を融合した、繊細にして優雅なガラス工芸の逸品です。

薩摩藩28代藩主島津斉彬によって創成されましたが、一時その火は途絶えてしまいました。しかし、百有余年の歳月を経て、その神秘的な輝きは甦り、今もなお人々を魅了しています。

問 株式会社島津興業

鹿児島市吉野町 9688-24
TEL 099-247-2111



問 株式会社ツジガラス工芸

南さつま市金峰町高橋 3308
TEL 0993-77-0561

問 薩摩びーどろ工芸(株)

さつま町永野 5665-5
TEL 0996-58-0141



問 頌峰(SHOHO)

鹿児島市川上町 1965
TEL 099-244-7515



問 株式会社美の匠ガラス工房 弟子丸

霧島市国分清水 1丁目 19-27
TEL 0995-73-6522



問 MIRIYU 工房

さつま町広瀬 281-2
TEL 0996-29-3790



02

薩摩錫器 Satsuma Suzuki (Tinworks)

産地 鹿児島市、霧島市



鹿児島では江戸時代に「錫山」で錫鉱山が発見され、薩摩藩の重要な財源となっていました。錫器の生産は明治期から盛んになり、贈答品として広く用いられていました。溶解から研磨まで全て手作業で行われており、屠蘇(とそ)器、花瓶、茶筒等が漆と酸で模様を作り出す独特の技法で生産されています。

問 浅田錫器

鹿児島市樋之口町 6-19
TEL 099-222-2752



問 有岩切実巧堂

霧島市国分中央 4-18-2
TEL 0995-45-0177





03

鶴田和紙

Tsuruda Washi (Japanese paper)

産地 さつま町

身近に採れるコウゾ、カジを使い漉いてあります。茶取り紙、障子紙、画仙紙等に使われてきました。色合いは柔らかく、手に取ると和紙の柔らかな手触りが伝わってきます。部屋のイメージに合わせたインテリア等にも利用されています。

問 鶴田手漉和紙

さつま町神子 4587
TEL 0996-59-2529



04

蒲生和紙

Kamo Washi (Japanese paper)

産地 始良市

手漉きらしいベージュの色合いの蒲生和紙は、見た目のザラツとした質感とはうらはらに、手に取ると柔らかく素朴な温かさが伝わってきます。藩政時代の殖産興業によって発達した手漉き和紙は県内でも蒲生などわずかになってしまいましたが、ひたむきに漉き続けられる蒲生和紙は、内外で高い人気を集めています。

問 小倉 正裕

始良市蒲生町上久徳 1487
TEL 0995-52-1104

instagram



05

薩摩つげ櫛

Satsuma Tsugegushi (Boxwood comb)

産地 指宿市

江戸時代中期、木曾川の治水工事の際、薩摩に持ち込まれた櫛作りは下級武士たちの内職として広まり、「つげになりたや薩摩のつげに諸国娘の手に渡ろう」と謳われるほど名を馳せました。つげを手作業で削って作られた櫛は、椿油に漬け込み、自然乾燥して仕上げます。

問 薩摩つげ櫛生産組合

指宿市大牟礼 2-24-13
TEL 0993-24-2094



喜多つげ製作所



06

屋久杉製挽物

Yakusugisei-hikimono (Yaku Cedar craftwork)

産地 鹿児島市、屋久島町

屋久島では明治の頃からノミで屋久杉をくりぬいた日用品が作られてきましたが、本格的な口クロ挽き製品は昭和30年代になってから製作されるようになりました。屋久杉の原木の持ち味を生かしてお盆・茶托・花瓶・菓子器等が製作されています。



07

屋久杉製無垢物家具

Yakusugisei-mukumonokagu (Yaku Cedar furniture)

産地 鹿児島市、屋久島町

屋久杉製家具の製造は、明治後期から始まり昭和30年頃から本格化しています。屋久杉の無垢板(貼り合わせではない一本の屋久杉から切り出した板)を十分に乾燥して組み立てた、屋久杉の木目の美しさを活かした収納用家具です。



08

屋久杉小工芸品

Yakusugi-Shokougueihin (Yaku Cedar craftwork)

産地 鹿児島市、屋久島町

屋久杉をくりぬぎ、または組み合わせることによって作られた製品です。屋久杉の土埋木を製材し、十分乾燥させながら作っており、完成するまでに4~5年をかけ、手間暇をかけて製作します。土埋木を余すことなく使用し、限られた資源である屋久杉を有効に活用して、ライフスタイルに合わせた様々な商品が開発されています。

問 鹿児島県屋久杉事業協同組合

鹿児島市東開町 3-35
TEL 099-268-1722

問 屋久島屋久杉加工協同組合

屋久島町安房 160-1
TEL 0997-46-3911

問 屋久杉銘木協同組合

鹿児島市東開町 3-2
TEL 099-269-5202





09

加世田鎌・加世田包丁

Kaseda Gama & Kaseda Bocho (Sickles and kitchen knives)

産地 南さつま市

槌の打ち跡が生々しく、荒々しい鋼の黒光りを持つ加世田の刃物。鋼を軟鉄で包み、日本刀と同じように何度も何度も鍛え上げていきます。丈夫で、鋭い切れ味が400年の伝統を物語ります。

問 加世田鍛冶組合

南さつま市加世田武田 18275
TEL 0993-52-2050

問 有限会社 外園金物店
南さつま市加世田東本町 4-14
TEL 0993-53-2084



10
11

種子鋏

Tane Basami (Scissors)

産地 西之表市

種子包丁

Tane Hocho (Kitchen knives)

産地 西之表市

種子鋏は、1543年ポルトガル人が日本に初めて鉄砲を伝えた時に、同船していた中国人の鉄鍛冶によって伝授されたもので、日本で最初の中間支点式の鋏です。明治以降、鉄砲・刀が製作出来なくなると、鍛冶職人たちは鋏とともに包丁の製作に取り組むようになりました。その切れ味は素晴らしく、多くの愛好家に親しまれています。

問 種子鋏種子包丁生産事業組合

西之表市池田 9881
TEL 0997-22-0513



田畑
刃物製作所

instagram



池浪
刃物製作所

12

薩摩深水刃物

Satsuma Fukamizu Hamono (kitchen knife & Cutlery)

産地 鹿児島市、枕崎市

原料の刃物鋼を使って火造り鍛造、焼きなまし、泥塗り、焼戻し、研磨、錆処理という伝統的な技法で製造される包丁、鎌等の刃物です。全て手作業で作られる鹿児島市の生活に密着した刃物です。

問 深水刃物術

鹿児島市宇宿 2-14-3
TEL 099-255-3743



問 株式会社 深水

枕崎市桜木町 163
TEL 0993-72-3511



13

刀剣

Token (Japanese sword)

産地 さつま町

藩政時代、薩摩は名刀「波之平」で名を馳せていました。今の刀剣は、「源盛篤銘」を刻まれ、相州風を受け継いでいます。焼刀の沸(にえ)と板目肌の特徴があり、刀身は69~79cmほどです。

問 藤田刀剣鍛錬所

さつま町柏原 28323
TEL 0996-53-0274



14

甲冑

Kachu (Suit of armor)

産地 薩摩川内市、始良市

鹿児島県内にて着用甲冑やお節句用の鎧を製作しています。鎧兜の素材には、金属・革・布・木・塗・箔・毛を用いて作られており、全てが熟練された職人からなる技法で作られています。

製作期間は約1カ月から半年かかるものもあります。まさに日本の総合芸術です。

問 甲冑工房丸武

薩摩川内市湯島町3535-7
TEL 0996-26-3113



問 株式会社 画堂

始良市平松18-3
TEL 0995-67-2217

Facebook



15

薩摩弓

Satsuma Yumi (Japanese bow)

産地 霧島市

藩政時代から県内の豊富な真竹を使って製作され、湿気に強くよく飛ぶことで定評があります。

明治から大正にかけては全国の9割を生産していました。

問 桑幡大弓製作所

霧島市隼人町神宮 2-6-26
TEL 0995-42-2273

問 桑幡正清大弓製作所

霧島市隼人町神宮 6-5-5
TEL 0995-42-2298





16

初鼓 (ポンパチ)

Hatsutsuzumi (Paper drum toy)

産地 霧島市

竹の柄の部分回すと糸で吊るされた豆が太鼓を打ち“ポンパチ”と音がすることから、ポンパチという愛称で親しまれている郷土玩具です。鹿児島神宮の初午祭にちなんで作られた玩具で400年以上の歴史を持っています。



問 工房みやじ

霧島市隼人町内山田 3-21-20
TEL 0995-42-2832

17

鯛車

Taikuruma (Sea bream shaped toy)

産地 霧島市

鹿児島神宮に伝わる郷土玩具のひとつ。山幸彦が海神の宮を訪れ、鯛の喉から釣り針を取り戻すという海幸・山幸伝説にもとづいたもので、鯛車は山幸彦の釣り針を飲み込んだ鯛を形作ったものです。素朴な郷土玩具として親しまれています。

18

香箱

Kobako (Incense box)

産地 霧島市

鹿児島神宮に伝わる郷土玩具のひとつ。海神の娘である豊玉姫が、山幸彦へお興入れを行った際の調度品であった化粧箱を模したものとされています。割木で作られた素朴な箱形に、赤、黄色、黒が鮮やかに色付けられています。



19

帖佐人形

Chosa Ningyo (Clay doll)

産地 始良市

粘土を型に入れて焼いた素焼きの人形に色付けした素朴な味わいの土人形です。動物から人、七福神までその種類は百近くにのぼると言われています。昭和の初め頃までは、子どもが生まれると帖佐人形を送り、3月と5月の節句に飾り子どもの成長を祝っていました。

問 帖佐人形窯元

始良市始良町西餅田 1372
TEL 099-227-7514



20

垂水人形

Tarumizu Ningyo (Clay doll)

産地 鹿児島市

明治末期から大正初期までに最も盛んに作られていましたが、戦後いったん途絶え、平成元年に復活しました。伝来を調査し、これをモデルに製造している垂水人形は、明るい色で朗らかな雰囲気を出しています。

問 垂水人形創遊

鹿児島市喜入前之浜町 8155-1
TEL 099-343-0198



21

坊津ガラガラ船・唐カラ船

Bounotsu Garagara-Bune (Bounotsu Garagara-ship)

産地 南さつま市

南さつま市坊津地域に伝わる船形の郷土玩具で、端午の節句に子どもたちが船を引いて歩く行列や、走る競争が行われています。飾り物用の小型の船も製作されています。

問 坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会

南さつま市坊津町坊 9424-1
TEL 0993-67-0171





22

薩摩糸びな

Satsuma Itobina (Paper doll)

産地 鹿児島市

一本の割り竹を首に見立て、その先に髪
の代わりに麻糸を垂らし、襟や衣の部分
は和紙や布を重ねて作り男女の別は衣
の柄で区別します。江戸初期から作られ
た鹿児島に伝わる変わり雛で「薩摩び
な」や「紙びな」と言われています。

問 小澤人形

鹿児島市玉里町 24-23
TEL 099-226-0550



23

伊集院の太鼓

Ishiyuin-no-teko (Drum)

産地 日置市

太鼓作りは、牛皮の加工と木製の胴の加工に
分けて進められ、最後に両方を合わせて出来
上がります。皮には引く力に強い赤牛皮が用
いられています。郷土芸能の太鼓踊り、神社の
祭典に使う宮太鼓など幅広い用途の締太鼓が
作られています。

問 宮内太鼓楽器店

日置市伊集院町大田 3279
TEL 099-272-2716

24

太鼓(チヂン)

Chijin (Goat hide small drum)

産地 鹿児島市、奄美市

奄美大島の島唄・八月踊り用の太鼓として製造が
おこなわれてきました。クスやセンダンの木をく
りぬいた胴に馬皮または山羊皮を貼り合わせて
クサビ締めをしたもので、とても軽い太鼓です。

問 奄美ちぢん・三味線製作所

奄美市名瀬朝仁町 15-5
TEL 0997-52-5349

問 奄美三味線

奄美市名瀬伊津部町 32-31
TEL 0997-53-7401



問 川畑織機製造所

鹿児島市真砂本町 55-5
TEL 099-254-9035



25

大漁旗

Tairyobata (Good haul congratulatory flag)

産地 いちき串木野市

大漁旗は、新造船祝いの他、最近では様々なハレ
の日のお祝いにも使われています。糊置、引き染
め、色止めなどの伝統的な技術・技法を用いて、
手作業で作られており、150年余りの歴史を有
する伝統的工芸品です。



26

五月幟

Gogatsu Nobori (Boy's Festival banner)

産地 いちき串木野市

五月幟は、端午の節句のお祝いに用いられて
います。オリジナル原図を基に下絵を描き、線
の部分を作り抜いて型紙を作る緻密な作業を
行いながら、色鮮やかな五月幟が製作されて
います。



近年は、受け継がれる伝統の技を生かして、ラ
イフスタイルやニーズに合わせた多彩な商品
づくりに取り組んでいます。

問 亀崎染工(有)

いちき串木野市旭町 156
TEL 0996-32-3053



27

奄美の芭蕉布

Amami-no-Bashoufu (Amami Banana Fabric)

産地 奄美市、知名町、与論町

植物の「芭蕉」(バナナの木の間)から糸をとり、その
糸を織って作られるもので、13世紀頃東南アジアか
ら奄美に伝達されたと言われていています。布は風通しが
良く、サラッとしているため、夏の長い奄美群島では
最適なものであると言えます。



問 株のみみ袖

奄美市名瀬浜町 215
TEL 0997-53-1373



問 沖永良部芭蕉布協議会

知名町下城 1221
TEL 0997-93-4753



問 与論民俗村

与論町麦屋 693-2
TEL 0997-97-2934





28 竹製品

Takeseihiin (Bamboo craftworks)

産地 鹿児島市、薩摩川内市、さつま町、湧水町

鹿児島は竹林面積が日本一であり、竹製品も800年前から作られています。竹製品のうち、竹ひご等を編んで製品としたものを編組物(へんそもの)といい、茶碗、茶筌等の「茶道具」や「花器」、「かご」等の日常生活用品まで多種多様な製品があります。近年は、「椅子」「キッチン用品」「小物類」などのモダンで機能性豊かな商品も作られています。

問 鹿児島市竹工芸振興組合

鹿児島市小山田町 9353
TEL 099-238-2323

問 堀之内竹工房

薩摩川内市高城町 999
TEL 0996-30-2654

問 西園竹工芸品店

さつま町轟町 24-8
TEL 0996-53-1453

問 大崩竹細工店

湧水町川西 798
TEL 0995-75-3998



画像提供：櫛ベガハウス



29 つづら工芸

Tsuzura Kougei (Wicker craftwork)

産地 さつま町

中世の頃から、背負いかゴが山仕事のための作業道具入れとして、山林に多く自生する青つづら藤を使って製作されていました。現在では背負いかゴの他、ハンドバッグのような日常品も作られるようになっています。

問 中山 敬志

さつま町杵野 585
TEL 0996-59-8800



30 宮之城花器

Miyanojo Kaki (Bamboo vase)

産地 さつま町

江戸時代から日常生活用具として作られており、しなやかで優美な孟宗竹を根付きのまま生かして作成されています。

一輪挿しや盛り花を引き立たせる花器です。

問 竹昌商事

さつま町船木 530
TEL 0996-53-1086

問 鍋田竹材

さつま町柏原 2832-1
TEL 0996-53-0765

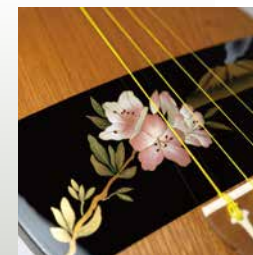


31 サンシン

Sanshin (Snake skin three-stringed Japanese guitar)

産地 奄美群島

奄美では、日常生活の中での島唄や八月踊りの演奏楽器として用いられています。蛇皮線とも言われますが奄美ではサンシンという呼び方が一般的です。もともと沖縄から伝わったものですが、奄美の歴史と風土の中で、形状が小さく、音色も高くなるなど変化し、奄美独特の楽器となっています。



32 薩摩琵琶

Satsuma Biwa (Four-stringed Japanese lute)

産地 日置市

薩摩琵琶は薩摩武士の文武奨励を図るために「琵琶唄」を奏でる楽器として普及しました。明治維新後は、東京を中心に全国に広がりました。全体は漆を用いて仕上げられ、螺鈿(らでん)、蒔絵などの手法も取り入れられています。

問 くるくる木工房

日置市伊集院町猪鹿倉 1-1-15
TEL 090-9490-5996

伝統的工芸品産地

国指定伝統的工芸品 県指定伝統的工芸品



01 本場大島紬



02 川辺仏壇



03 薩摩焼



01 薩摩切り子



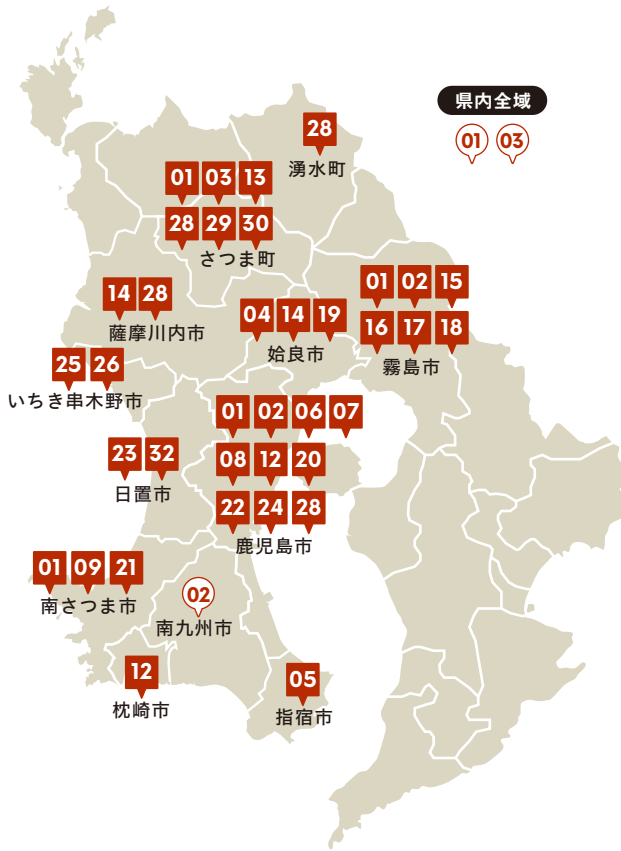
02 薩摩錫器



03 鶴田和紙



04 蒲生和紙



11 種子包丁



12 薩摩深水刃物



13 刀剣



14 甲冑



15 薩摩弓



16 初鼓 (ポンパチ)



17 鯛車



18 香箱



19 帖佐人形



20 垂水人形



21 坊津ガラガラ船・唐カラ船



22 薩摩糸びな



23 伊集院の太鼓



24 太鼓 (チチン)



25 大漁旗



26 五月幟



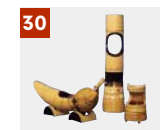
27 奄美の芭蕉布



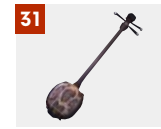
28 竹製品



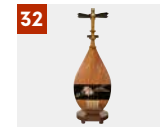
29 つづら工芸



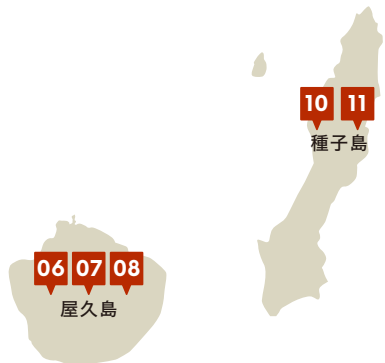
30 宮之城花器



31 サンシン



32 薩摩琵琶



05 薩摩つけ櫛



06 屋久杉製挽物



07 屋久杉製無垢物家具



08 屋久杉小工芸品



09 加世田鎌・加世田包丁



10 種子鋏

